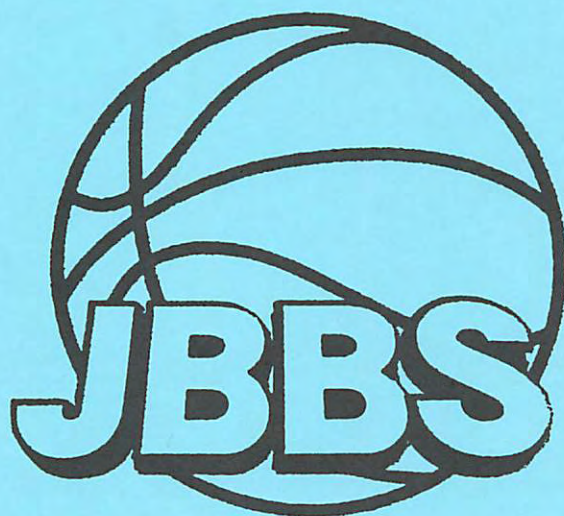


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

No:57



2013年2月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7

目 次

○ J X－ENEOS ウィンターカップ2012	3
第43回全国高校選抜優勝大会結果	
○ 第88回天皇杯・第79回皇后杯	7
全日本総合選手権大会終わる	
○ 新リーグ開催概要固まる	15
○ 女子バスケット世界の動向と日本の強化	17
女子日本代表ヘッドコーチ 内海知秀氏に伺う	
○ ロンドンパラリンピック競技大会結果	21
○ 12月21日はバスケットボールの日！ 石井 一生 . . .	24
2012年も行なった記念イベント	
○ バスケットボール湘南だより（第1回） 中瀬 達雄 . . .	26
◇大忙しの1月バスケットボールごよみ◇	
○ 全国ゴールデンシニア交歓大会	28
横浜カップ2013	
○ 歴史的資料のご紹介 歴史部 . . .	30
○ JBLレギュラーシーズン後半戦へ	31
○ WJBLはプレーオフへ	33
○ ミニバス全国大会	35
○ 訃報・追悼文	36
○ 事務局だより	38
○ プラザ こぼればなし	39

「東日本大震災」被災地復興支援

J X-E N E O S ウィンターカップ 2012

第43回全国高校選抜優勝大会結果

[編集部]

首題の大会は昨年12月23日から29日まで広島県広島グリーンアリーナにて開催、今回は例年開催している東京体育館が工事で使用できないため、地方開催となった。

大会は初日から最終29日まで相変わらずの人気だったが、地方開催ということもあってか観客動員数は例年を下回った。

男子はインターハイを制した九州延岡学園が留学生バンバ選手(200cm)のリバウンド力によって勝ち進む一方で、ノーシードの香川県の尽誠学園が準決勝で名門洛南を相手に劇的な逆転勝利を演じて決勝に進んだ。

女子はやはりインターハイを制した愛知県の桜花学園が危なげなく勝ち進み、決勝戦はインターハイと同じカードの桜花学園と聖カタリナ女子の対戦となった。

選手としては昨年に続いて下馬評に上げられた尽誠学園の渡邊雄太選手が、197cmの身長ながらオールラウンドのプレイで活躍、女子では桜花学園の選手層の厚さがものをいった。

男子決勝戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
延岡学園	23	17	13	15	68
尽誠学園	9	16	21	20	66

昨年のウィンターカップと同じカードとなった決勝戦は、出だしアウトからのシュートを狙ったが低得点だった尽誠学園に対し、延岡学園がセネガルからの留学生バンバのリバウンドなどで第1ピリオドからリードを広げ、前半を終えて15点の差をつけた。

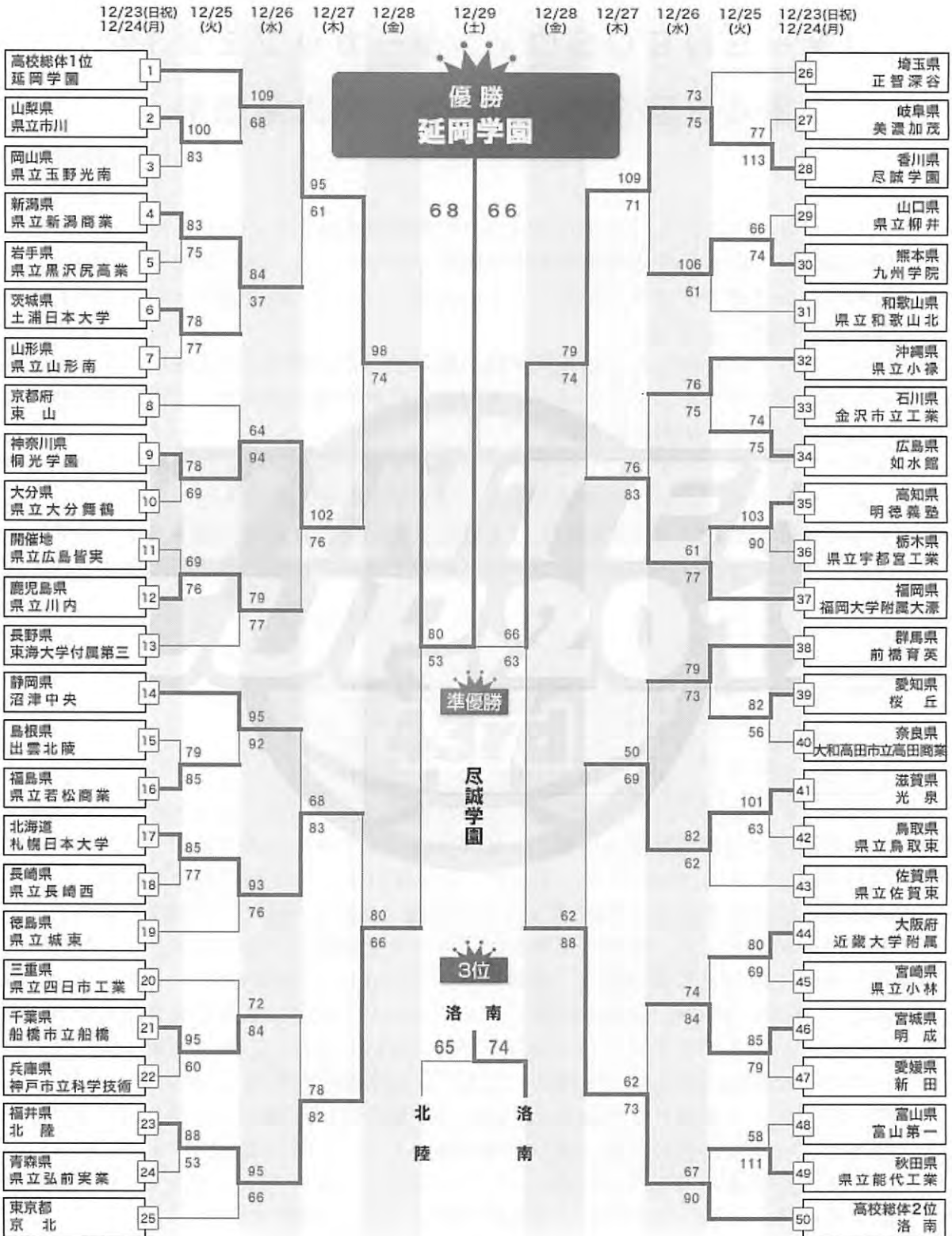
一方の尽誠学園は後半に入るや#7 渡邊などの活躍で猛攻、一気に8点差まで詰め寄ったあと一進一退の展開となり、第3ピリオドを終わって53対46の7点差となった。

第4ピリオドに入ると尽誠学園は、留学生バンバに対して徹底的なチームディフェンスをしかけてリズムをつかみ、渡邊や山野のシュートなどで中盤に2点差まで詰め寄り、更に5分を過ぎたところでフリースローを決めて同点に持ち込む。しかし延岡学園も連続3Pシュートなどで逆転は許さず、積極的に攻めた尽誠学園も同点までであった。

試合の大詰めとなった残り56秒、タイムアウト後の延岡学園がバンバのドライブインで2点差として一歩抜け出した後、残り時間が僅かとなった時尽誠学園は山野のシュートで同点とする延長戦を狙ったがこれがはずれて万事休す。結局1ゴール差で延岡学園が優勝、尽誠学園は果敢に戦ったがあと一歩及ばず昨年に続いて涙をのんだ。

この試合のデータを見ると尽誠学園の健闘振りがうかがえる。すなわち留学生のいる延岡学園に対してリバウンドでは46本と延岡学園の47本に匹敵したが、2P、3Pのシュート確率で見ると延岡学園の43%に対して尽誠は29%で、その差が勝敗を分けた。

＜男子の結果＞



女子決勝戦

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
桜花学園	30	17	12	29	88
聖カタリナ女子	18	24	14	23	79

インターハイの決勝と同一カードとなった決勝戦、桜花学園は昨年続く連覇を狙い、聖カタリナはインターハイの雪辱を期しての熱戦となった。

聖カタリナは第1ピリオドから第4ピリオドまで終始オールコートマンツーマンのディフェンスで相手を苦しめた。しかしそれがオフェンスに響いたのか3Pシュートが13本中1本しか決まらず、最後に桜花学園に抜け出されて敗れた。高校生らしく最後までオールコートでディフェンスを頑張った聖カタリナの戦いは賞賛していいだろう。

桜花学園はなんと言ってもU-18日本代表選手である#5 河村(183cm)とPG#13 森田(161cm)の活躍が光る。河村が40点、森田が20点と二人合わせて実に60得点を叩き出し、これは全得点の68%となる。

桜花学園は第1ピリオドからリバウンドを支配して、聖カタリナのオールコートディフェンスをかいくぐり12点のリードを奪う。

第2ピリオドに入ると聖カタリナのディフェンスが功を奏し、桜花学園はターンオーバーを重ねて得点の伸びが少なくなって詰め寄られ、前半を終えて47対42と桜花学園が5点のリードとなる。

第3ピリオドになっても聖カタリナのディフェンスは衰えることなく、スティールからの速攻などで勢いに乗り6分を過ぎたところでついに逆転に成功する。しかし桜花学園も河村を中心に踏ん張り47対42と再び5点リードしてこのピリオドを終わる。

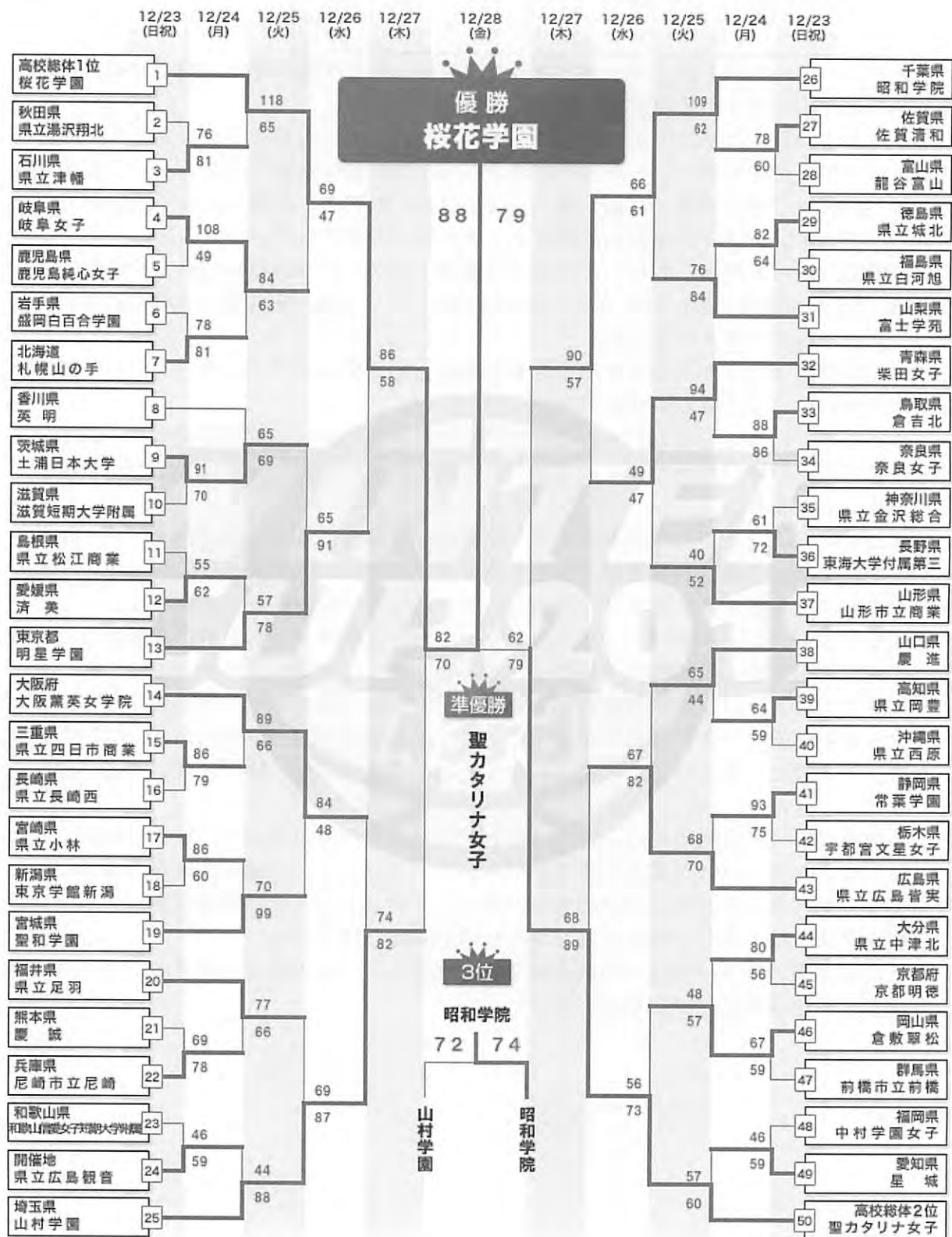
第4ピリオド、オールコートでプレッシャーをかける聖カタリナが再び逆転すると、桜花学園も河村を中心に徹底的にインサイドから加点して再逆転し、試合は白熱する。

聖カタリナはディフェンスの疲れからか試合が進むにつれてファウルが多くなり、これに対する桜花学園のフリースローが着実に決まって少しずつリードが広がる。桜花学園は聖カタリナの厳しいディフェンスをかわしてそのまま逃げ切り、昨年に続いて見事優勝を決めた。

この試合のデータを見るとなんと言ってもリバウンドの差が目立つ。桜花学園の56本に対して聖カタリナは23本と相手に圧倒された。2Pシュート確率は桜花学園54%に対して聖カタリナは52%でほぼ同等だったが、3Pシュートでは桜花学園が4本決めたのに聖カタリナは1本しか決められなかったのが敗因のひとつか。

また桜花学園のフリースローの確率89%は立派、いつも本誌が主張するフリースローの大切さを桜花学園が立証した形となった。

<女子の結果>



「東日本大震災」被災地復興支援

第 8 8 回天皇杯・第 7 9 回皇后杯

全日本総合選手権大会終わる

[編集部]

第 8 8 回天皇杯、第 7 9 回皇后杯 全日本総合選手権大会は 1 月 1 日駒澤体育館を皮切りに開催、その後は代々木第二体育館、第一体育館に会場を移して 1 月 6 日の準々決勝まで進み、中休みを置いて 1 月 1 1 日から男女の準決勝、決勝が行われた。

今回の大会は日本協会の努力によって改善された内容となった。その中でも最大の特徴はテレビ放映の試合数が増えたことである。すなわちNHKのBS1チャンネルにおいて男女共 1 月 4 日の試合から全国放映されたことであり、全部で 1 2 試合がテレビ放映された。(内決勝戦はEテレ地上波)

会場の整理についても、指定席、一般席、記者席、写真区域、関係者席などきちんと整理区別されるとともにその表示もはっきりしていて、来場者にわかりやすく掲示されていた。さらに第一体育館において 2 階サイド席のコートから遠い両端を黒幕で覆ってそこに観客が入らないようにし、観客のまばら状況を防止したことも良かった。

しかしながら少々気にかかる点もなかったわけではない。それは観客数の偏りで、試合によって相当差が生じたことである。準決勝戦以降はともかくとして準々決勝戦あたりではそのことが目立った。最終の試合開始時間について平日の 1 9 時はやむ得ないとして、土曜日曜は 1 9 時開始をもう 3 0 分繰り上げる日程を考慮しては如何なものであろうか。1 9 時開始の最終試合の観客が殆どチーム関係者だけということから、一工夫あってもよいのではなかろうか。

また、入場料金について駒澤体育館を除いて、一般席 3,000 円の料金は高いという声を少なからず耳にした。準決勝以上は良いとしても 3 回戦まではもう少しリーズナブルな低価格で一般入場者増を図ってはどうか。

出場チームは男女とも JBL、WJBL、学生、社会人、地方ブロック、高校生から選出された 3 2 チームで、そのトーナメント戦は多岐に亘り好ゲームが展開された。

特筆すべきは男子において学生 2 位の青山学院大学が、3 回戦で JBL のレバンガ北海道に快勝しベスト 8 に進出したことで、昨年学生チームがベスト 8 入りを果たせなかったことからみれば称賛できる。男子は外国籍選手がオンザコートに 1 名いることから、その次のトヨタ自動車戦では敗れたが学生らしい試合展開で好感が持てた。

女子では学生 4 位の筑波大学がベスト 8 に進出、準々決勝で WJBL の富士通に善戦し、一時はあわやという場面もあったが最後には燃え尽きた。このように学生陣の上位進出は大会に活気を生み出し観客動員面でも好影響をもたらすので、来年度は更なる練習を積んで次の段階まで進出することを期待したい。

大会は 1 3 日の女子決勝戦までは順調に進んだが、男子決勝戦の 1 4 日、東京は大雪に見舞われ交通機関が大混乱、試合開始時間が 1 5 分遅れるという事態が生じた。決勝戦に

臨む両チームともタクシーが渋滞にはまって動かず、雪の中を歩いて体育館にたどり着いた選手も出た。

男子の決勝戦はアイシンシーホース対パナソニックトライアonzの対戦となったが、最後は大接戦の末、今限りで休部が決まっているパナソニックが優勝を飾るという皮肉な結果となった。

男子の結果

<男子> 勝ち上がり表		1回戦	2回戦	3回戦	準々決勝	準決勝	決勝	準決勝	準々決勝	3回戦	2回戦	1回戦		
		1 (火・祝)	2 (水)	3 (木)	5 (土)	12 (土)	14 (月・祝)	12 (土)	6 (日)	4 (金)	2 (水)	1 (火・祝)		
1	JBL1	トヨタ自動車アルバルク											東芝ブレイブサンダース	17
2	北信越	富山大学			120	63			100				筑波大学	18
3	近畿	関西学院大学	83 71	101 77					64	78 63			延岡学園高等学校	19
4	九州	MTC							80 67				アイシン・エイ・ダブリュ アレイオンス安城	20
5	大学2	青山学院大学			99 68			67 75					兵庫ストークス	21
6	四国	愛媛教員クラブ		88 61						72 56			曙ブレーキ工業	22
7	大学6	専修大学	81 70		93 81		64 61		62 85	93 63			SWOOPS	23
8	JBL8	レバンガ北海道											三菱電機 ダイヤモンドドルフィンズ	24
9	JBL5	日立サンロッカーズ					84 66						リンク栃木ブレックス	25
10	社会人2	横河電機			80 69				83 52				JR東日本秋田	26
11	JBL2 4	デイトリックつくば	74 85	82 47						81 64			大東文化大学	27
12	大学4	近畿大学							60 81				東海大学	28
13	JBL2 2	TGI・Dライズ			62 76			74 82					明治大学	29
14	中国	BEANS		81 77						53 56			宮田自動車	30
15	大学8	日本大学	75 76		75 84					65 92			九州電力	31
16	JBL4	パナソニックトライアonz							55 83				アイシンシーホース	32

今回の天皇杯は多くの話題と注目を集めた大会となった。すなわち学生2位の青山学院大学がJBLチームを破ってベスト8に進出したことや、昨年の覇者トヨタ自動車が準決勝でパナソニックに完敗し、勝ったパナソニックが全力を出し切って決勝戦でアイシンを僅差で下し劇的な勝利を収めたことなどである。

前述のようにパナソニックは今期かぎりでの休部が決まっているが、それにもかかわらずスタッフや選手のこの大会にかけた意気込みには壮絶なものを感じられた。

以下に注目された試合を振り返ってみる。

1月3日男子3回戦 レバンガ北海道対青山学院大学

	1P	2P	3P	4P	計
青山学院大学	25	23	18	27	93
レバンガ北海道	22	14	25	20	81

試合は序盤青山学院大学#56比江島とレバンガ北海道#9折茂のシュートの入れ合いで進んだ。第2ピリオド青山学院大学は#15山崎なども加わって学生らしく速攻もさえ、前半を終えて12点の差をつけた。一方レバンガ北海道は後半に入ってインサイドの#41キレットにボールを集めて追い上げを見せ第3ピリオド残り5分で1点差に詰め寄る。しかし青山学院大学はそこから奮起して逆転はされず5点差で第3ピリオドを終了。

第4ピリオドに入ると再び青山学院大学が比江島や山崎の活躍で点差を伸ばし最後は12点差で勝利した。

この試合のデータをみると2P3Pのシュート確率は両チームほぼ同じであるが、リバウンドではレバンガ北海道の41本に対して青山学院大学は28本と開きがあった。しかし、ターンオーバーではレバンガ北海道17に対して青山学院大学は9で、レバンガ北海道が青山学院大学のディフェンスに自滅した形となった。また、男子全日本代表に選出されている青山学院大学の比江島選手は、28得点、9リバウンド、11アシストと素晴らしい活躍、これから全日本代表選手の一員として大いに期待できる。



攻める比江島

1月12日男子準決勝 パナソニックトライアンズ対トヨタ自動車アルバルク

	1P	2P	3P	4P	計
パナソニック	23	21	23	17	84
トヨタ自動車	14	18	19	29	80

今限りで休部が決まっているパナソニックは#14金丸のシュートや#40ワトキンスのインサイドなどで前半から攻撃が冴える。一方昨年の覇者トヨタ自動車はオフェンスがうまくかみ合わなくてなかなか調子が出ず、前半を終わって44対32とパナソニックが12点のリードを奪う。第3ピリオドに入ってもこの状況は変わらず、点差は16点に広が

りこのままパナソニックの優位かと思われた。

しかし第4ピリオドに入ると状況が一変、トヨタ自動車が#31 リッチーや#10 岡田の3Pシュートなどで追い上げ、6分を過ぎたところで70対71の1点差に詰め寄った。一方のパナソニックは7分間で4得点と低迷、トヨタ自動車は更には#21 竹内のバスケットカウントで逆転に成功する。その後は一進一退の攻防が続き、パナソニックが#1 木下や#14 金丸のシュートで主導権を握ったのに対して、トヨタ自動車はやや後手に回った。第4ピリオド残り20秒で2点差とされたトヨタ自動車はファウルゲームをしかけるが、パナソニックは#1 木下がフリースローを確実に決めて4点差で逃げ切った。

負ければ後がないパナソニックの気迫が勝利をものにしたといってよく、ポイントガードの木下18点、金丸29点、ワトキンス21点と3人で68点を叩き出したのは立派。パナソニックはリバウンドでも47本とトヨタ自動車の35本をはるかに上回りそれを立証した格好となった。

1月14日男子決勝 パナソニックトライアンズ対アイシンシーホース

	1P	2P	3P	4P	計
パナソニック	12	14	23	15	64
アイシン	24	16	11	10	61

大雪に見舞われた東京代々木第一体育館、チームの到着が遅れて試合開始が15分遅れた



激しい攻防

男子決勝戦、アイシンはいつものペースで#4 ヤングや#32 桜木が得点を重ねたが、パナソニックはオフェンスがかみ合わず第1ピリオドで12点差となる。

第2ピリオドに入るとパナソニックは#24 広瀬や#10 大西らのシュートで徐々に点差を詰めて5分に2点差まで詰め寄る。しかしアイシンもインサイドとアウトサイドをうまく使って得点を重ね再びリードを広げて前半を14点差で終わる。

第3ピリオドに入るとパナソニックは#40 ワトキンスの速攻や#1 木下の2本の3Pシュートなどで点差を縮め6分過ぎに再度2点差に詰め寄る。その後は両チーム互角の戦いがつづき、アイシンが51対49の2点差でこのピリオドを終わる。

一進一退の攻防が続く第4ピリオド、19分を過ぎたところでパナソニックのワトキンスがフリースローを決めて63対61と一歩抜け出した後、必死のディフェンスでアイシンの攻撃を抑えマイボールに。アイ

シンは残り6秒でファウルゲームに出たが、パナソニックは木下がフリースローを決めて3点差とし、そのまま逃げ切ってパナソニックの16年ぶり10回目の優勝が決まった。

休部が決まっているパナソニックが16年ぶりの優勝と云う結果に終わったオールジャパン男子、この大会にかけるパナソニックの迫力は鬼気迫るものがあった。

それこそ全員一丸となって攻守とも必死に戦い、トーナメントの一戦一戦を勝ちぬいた姿は観衆に感動を与えただろう。決勝戦において一時14点のビハインドを逆転して勝利

に至った経過がそのことを如実に物語っている。

女子の結果

<女子> 勝ち上がり表		2013年1月												
		1国総 1 (火・祝)	2国総 2 (水)	3国総 3 (木)	準々決勝 5 (土)	準決勝 11 (日)	決勝 13 (日)	準決勝 11 (日)	準々決勝 6 (日)	3国総 4 (金)	2国総 2 (水)	1国総 1 (火・祝)		
1 WJBL1	JXサンフラワーズ												トヨタ自動車 アンテロープス	17 WJBL3
2 九州	鹿児島体育大学				72	48			121				白鷗大学	18 大学6
3 近畿	大阪薫英女学院高等学校		77 92		51 86				57 53	84 58			山梨クィーンビーズ	19 WJBL12
4 WJBL7	デンソー アイリス												早稲田大学	20 大学2
5 WJBL9	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ					92 48			92 46				アイシン・エイ・ダブリュ ウィングス	21 WJBL8
6 関東	山梨学院大学				57 52			69 90		63 61			愛知学泉大学	22 大学7
7 東海	岐阜女子高等学校		62 51		83 61				78 71	61 50			秋田銀行	23 東北
8 大学1	大阪体育大学						77 79						新潟アルビレックス BBラビッツ	24 WJBL6
9 WJBL5	三菱電機 コアーズ						51 75						桜花学園高等学校	25 桜花学園高
10 大学3	拓殖大学				90 55				58 67				環太平洋大学	26 中国
11 北海道	アカシヤクラブ		92 59		66 82				70 60	71 76			筑波大学	27 大学4
12 WJBL10	日立ハイテク クーガーズ												エバラ ヴィッキーズ	28 WJBL11
13 社会人2	鶴屋百貨店					61 76			68 76				山形銀行	29 社会人1
14 北信越	石川教員				71 89				55 52				大阪人間科学大学	30 大学8
15 大学5	松蔭大学				68 89				46 79	86 59			今治オレンジブロッサム	31 四国
16 WJBL4	シャンソン化粧品 シャンソンVマジック				85 118								富士通 レッドウェーブ	32 WJBL2

皇后杯女子においても学生4位の筑波大学が高校代表の桜花学園を破ってベスト8に進出、準々決勝の富士通戦であわやベスト4かと思われる戦いで健闘した。優勝は間違いなしと前評判の高かったJ Xは、準々決勝のトヨタ紡織戦でフォワードの間宮が怪我をしたことが響いてかトヨタ自動車との決勝戦で精彩を欠いて連覇はならず、トヨタ自動車アンテロープスが初優勝を飾った。

今回女子の試合では、3 Pシュートの高確率な成功が目立ち、日本女子バスケットの方

向性が垣間見えた感があり、これからの女子日本代表の飛躍が期待される。

以下に男子同様注目された試合を振り返ってみる。

1月6日女子準々決勝 富士通レッドウェーブ対筑波大学

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
富士通	23	16	15	22	76
筑波大学	21	15	19	13	68

学生4位の筑波大学がWJBL 2位の富士通に対して真っ向から挑んだ好ゲームとなった。開始からお互いに白熱した試合展開となり、富士通が#0 長岡や#1 三谷の3 Pシュートなどで得点するのに対して、筑波大学は#6 伊集や#16 藤岡、長身#13 白の活躍で食らいつき第1ピリオドは2点差。第2ピリオドに入ってもこの展開は変わらず、5分になって筑波大学が29対27と逆転に成功、しかし富士通も#15 山本の3 Pシュートなどで譲らず、前半を終えて39対36の3点差で富士通がリードする。

第3ピリオド筑波大学は、伊集や藤岡のドライブインなどで終盤に追い上げ、残り1分に52対52の同点とし、更にフリースローで加点してとうとう55対54と1点ではあるが逆転リードする。

第4ピリオド富士通は長岡のゴール下シュートで逆転した後、#45 名木の3 Pシュートなどで突き放し開始4分で67対58とリードする。対する筑波大学は伊集の3 Pシュートなどで食い下がったが2 Pシュートの確率が悪くなって点差を詰めることができず、結局8点差で敗れた。

筑波大学はよく健闘したがデータの的に2 Pシュートの確率 42%に対して、3 Pシュート確率が 22%と極端に悪くこれが敗因となったが、学生らしい戦いで会場を盛り上げた。



シュートを狙う筑波北原

1月11日女子準決勝 トヨタ自動車アンテロープス対富士通レッドウェーブ

	1 P	2 P	3 P	4 P	計
トヨタ自動車	24	21	19	15	79
富士通	21	12	26	16	75

序盤から激しい点の取り合いで試合が進む。トヨタ自動車がポイントガード#25 久手堅のリードでバランスよく得点すれば、富士通も#45 名木や#0 長岡らが入れ返す展開となり第1ピリオドは接戦が続いた。

第2ピリオドに入るとトヨタ自動車は久手堅の速攻や#25 鈴木らの3 Pシュートで点差を開いていく。対する富士通は相手ディフェンスに阻まれてボール回りがうまくいかないで得点が止まり5分間無得点となる。タイムアウト後の富士通は終盤に追い上げたが12点差で前半を終える。

第3ピリオドに入ると開始3分でトヨタ自動車が一時19点差とリードしたが、今度は富士通が猛攻、長岡のゴール下や名木の3Pシュートなどが次々と決まって、64対59と5点差に詰め寄る。

第4ピリオドはお互いに激しい展開となり、富士通#10 町田が活躍すればトヨタ自動車はベテランの#12 矢野が要所で得点するなど、どちらも譲らなかったが6分を過ぎたところで富士通長岡のジャンプシュートで73対73の同点となる。トヨタ自動車はここから矢野のシュートで先に抜け出して2点リードしディフェンスを固めたのに対して、富士通はシュートのタイミングがかみ合わず、逆にトヨタ自動車にダメ押しのシュートを入れられて75対79の4点差で敗れた。



この試合の2Pシュートの確率を見ると、トヨタ自動車の42%に対して富士通は65%で驚異的な高確率だったが、3Pシュートの確率が20%しかなく、トヨタ自動車の39%の約半分とこの低い確率が最後まで響いた。

1月13日女子決勝 JXサンフラワーズ対トヨタ自動車アンテロープス

	1P	2P	3P	4P	計
JX	16	15	23	15	69
トヨタ自動車	26	22	16	26	90

この大会5連覇を狙うJXと3年ぶりに決勝に進出したトヨタ自動車の決勝戦は思わぬ展開となり、結果的にトヨタ自動車が初優勝を飾った。報道陣を含めて、大方の予想はJX優勝の予想であったが、好調のトヨタ自動車に対して、JXは怪我の影響が残る間宮がフル出場できなかったことと、大神の不調が響いて完敗した。



第1ピリオドトヨタ自動車は#24 栗原が連続3本の3Pシュートを決め、開始4分に15対5と10点をリードする。タイムアウト後のJXは#10 渡嘉敷のゴール下シュートや#12 吉田のドライブインなどで立ち直りを見せたが、その後もトヨタ自動車の好調なシュートが続き点差10点のままピリオドを終わる。トヨタ自動車の栗原はこのピリオドだけで4本の3Pシュートを成功させた。

第2ピリオドに入っても3Pシュートを始めとするトヨタ自動車の攻撃が続いたのに対して、JXは渡嘉敷以外思うようにシュートが決まらず、前半を終わって48対31という大差でトヨタ自動車がリード。

第3ピリオド、JXは怪我のためそれまで出場させなかった#21 間宮を敢えて投入、吉田、渡嘉敷と絡み合っようやく攻撃が調子に乗り、開始3分に50対59と1桁に詰め寄る。トヨタ自動車は終了間際に#25 久手堅が放った3Pシュートがリングに吸い込まれ、64対54の10点差でこのピリオドを終了。

第4ピリオドに入ってしばらく一進一退が続いたが、中盤トヨタ自動車がアウトからのシュートを決めたのに対して、JXは4分間ノーゴールとなりここで一気にトヨタ自動車がリードを広げ7分過ぎには80対62とする。何とかしたいJXだったが渡嘉敷のゴール下以外は決め手を欠き、結局90対69という大差でトヨタ自動車が初優勝を飾った。

この試合トヨタ自動車は15本の3Pシュートを決め確率47%と驚異的な数字、対するJXは1本しか決められずこの差が勝敗を分けたといっよく、女子の試合においては特に3Pシュートの成否が試合を左右することが裏付けられた。

表彰式

男女とも決勝戦終了後に表彰式が行われ、天皇杯、皇后杯とともに優勝チームに賞金500万円が贈られた。

また個人表彰では下記の選手が大会ベスト5に選ばれた。

男子大会ベスト5

選 手 名	チーム名	番号	受賞回数
木下 博之	パナソニックトライアンズ	1	2年ぶり2回目
金丸 晃輔	〃	14	初
ジャミール・ワトキンス	〃	40	初
柏木 真介	アイシンシーホース	3	2年連続6回目
桜木 ジェイアール	〃	32	3年連続5回目

女子大会ベスト5

選 手 名	チーム名	番号	受賞回数
川原 麻耶	トヨタ自動車アンテロープス	1	初
矢野 良子	〃	14	2年連続6回目
池田 麻美	〃	40	8年ぶり2回目
渡嘉敷 来夢	アイシンシーホース	3	3年連続3回目
長岡 萌映子	〃	32	初

新リーグ開催概要固まる

[編集部]

新リーグNBL(National Basketball League)運営本部は、このほどその開催概要を以下のように決定し、9月スタートに向けて更に具体的な日程調整に入る。一時は予定した参加チームが満たされないのではないかと心配される事態もあったが、結果的に12チームが参加することとなって新たなリーグが始まる。

NBLはプロという名称こそ使わないが、運営的にはほぼ完全なプロ方式を取り入れ、体育館の確保、観客動員、チーム運営などリーグ運営の全てがそれぞれのチームにゆだねられることになり、参入チームにとってはビジネス的な運営要素が求められる。

1. NBL開催期間

- ① レギュラーシーズン 2013年9月28日(土)～2014年4月27日(日)
- ② プレーオフ
 - (1) クォーターファイナル 2014年5月 2日(金)～2014年5月 5日(祝)
 - (2) セミファイナル 2014年5月 10日(土)～2014年5月 13日(火)
 - (3) ファイナル 2014年5月 21日(水)～2014年5月 26日(月)

2. 大会方式

- ① レギュラーシーズン 全試合数324試合 1チーム当たり54試合
12チームを2つのカンファレンスに分けた6チームで総当たりリーグ戦を行い、12月7日から3月23日までの間に他カンファレンスチームと交流戦を行う
- ② プレーオフ レギュラーシーズン各カンファレンスとも上位3チームによるトーナメント戦
 - (1) クォーターファイナル カンファレンス2位3位同士による3戦2勝方式
 - (2) セミファイナル カンファレンス1位とクォーターファイナルの勝者による3戦2勝方式
 - (3) ファイナル 各セミファイナル勝者による5戦3勝方式
- ③ オールスター カンファレンス毎に投票と推薦による選手で12月に行う

3. サラリーキャップ

チームTOTAL 1億5千万円(税込、選手のみ、外国籍選手含む)

※ 選手契約期間は6月1日から翌年の5月31日までに統一

4. 選手数

チーム登録選手数15名 試合出場選手数12名

※ 上限を4年として複数年契約を可能とする

※ 選手保有権を保持したまま他チームでのプレーを可能とするレンタル移籍制度を導入

5. 外国籍選手に関するルール

チーム登録外国籍選手数 2 名

第 1 ピリオド・第 3 ピリオド オンザコート出場数 2 名

第 2 ピリオド・第 4 ピリオド・延長戦 オンザコート出場数 1 名

6. 参入チーム

イースタンカンファレンス

チーム名	略 称	フランチャイズエリア
レバンガ北海道	北海道	北海道
リンク栃木ブレックス	リンク栃木	栃木県
千葉ジェッツ	千葉	千葉県
日立サンロッカーズ東京	日立東京	東京都・千葉県柏市
トヨタ自動車アルバルク東京	トヨタ自動車東京	東京都
東芝プレイブサンダース神奈川	東芝神奈川	神奈川県

ウェスタンカンファレンス

チーム名	略 称	フランチャイズエリア
デイトリックつくば	つくば	茨城県
アイシンシーホース三河	アイシン三河	愛知県
三菱電機ダイヤモンドドルフィンズ名古屋	三菱電機名古屋	愛知県
和歌山トライアンズ	和歌山	和歌山県
兵庫ストークス	兵庫	兵庫県
熊本ヴォルターズ	熊本	熊本県

なお、和歌山トライアンズは、パナソニック株式会社の許諾を受け、チーム名にパナソニックトライアンズの一部を取り入れた。選手も現在パナソニックに所属する選手のうち約半数が和歌山に移籍を予定している。

また、チーム運営のため和歌山トライアンズ株式会社が設立され、2月8日から業務を開始した。

女子バスケット世界の動向と日本の強化

女子日本代表ヘッドコーチ 内海知秀氏に伺う

[編集部]

昨年のロンドンオリンピックにおいて、バスケットボールは男女とも出場することができず、バスケットボールファンとして悔しい思いをされた方も少なくないであろう。しかし女子については、トルコで開催された世界最終予選で最後まで奮闘し、今一步というところであったことはご承知の通りである。

そこで編集部では、女子日本代表のヘッドコーチを務められている内海知秀氏に振興会事務所へお出でいただき、女子バスケットの世界的な動向とこれからの日本女子代表の強化について伺う機会を設けてみた。

内海ヘッドコーチはロンドンオリンピック女子の試合を予選から視察されていることから、世界における女子バスケットはどのような方向性なのか、またそれに対して日本はいかに強化して行くのかなどのお話を聞くことができたので以下にご報告する。

内海知秀氏プロフィール



昭和33年(1958)青森県出身

能代工業高校から日本体育大学卒業

昭和56年(1981)日本鉱業入社日本リーグへ

全日本代表チームポイントガードとして活躍

昭和63年(1988)札幌大学コーチ

平成14年(2002)ジャパンエナジー(現JX)ヘッドコーチ

平成16年(2004)女子日本代表チームヘッドコーチとして

アテネオリンピック出場

平成24年(2012)女子日本代表専任ヘッドコーチ

—— 本日はお忙しいところわざわざ事務所までお出でいただいて有難うございます。昨年ロンドンオリンピックへ視察に出かけられたそうですが、世界的に女子バスケット界の動向を教えてください。

オリンピックではアメリカが群を抜いて強かったです。大きい選手が揃っていてインサイドアウトサイドを問わずいろいろなプレイをこなすというスタイルで、他の国とは相当な開きがあるといっているですね。当然世界ランキングでも1位ですが、ランキングは別にして次に強いのはオーストラリアだと思いました。今回のオリンピックでは、準決勝でアメリカと対戦する結果となったので3位でしたが、安定感がありベテランの選手も多くなりの力を持っています。

世界最終予選で日本と対戦したカナダとトルコがベスト8になりましたが、その中でもトルコは強いですね。トルコは2020年のオリンピック開催を目指して強化しているようで、アメリカからの帰化選手を含めて190cm台の選手が2名いますし、ヨーロッパのユーロリーグでプレイする選手も何人かいます。

あとヨーロッパ勢も強くなっています。中でもフランス、チェコ、トルコなどの国々に

はユーロリーグでプレイする選手が多くいて、ユーロリーグのシーズンオフにはWNBAに行行ってプレイするなどして相当な力をつけているようです。

アジア勢ではやはり中国で、身長の高い選手も多く前回の北京オリンピックに出場したベテランが軸になって若手と絡み合いながら活躍していました。韓国は日本同様そんなに身長は高くありませんが、韓国バスケット界あげて強化しているようで帰化選手もいると聞いています。

—— オリンピックに出場する国は上背のある選手が多いと思いますが特徴的なことは？

全体的に高身長でありながら運動能力が高く、シュートなどの技術レベルも高いと云う印象です。アテネオリンピックの当時と比べるとバスケットそのものが変わってきていて、高身長でも組織的にプレイするオールラウンドバスケットになっています。

また、どこの国でもアメリカから帰化する選手が多いのも世界的な傾向で、それが比較的少ないのはアジアの国ですかね。女子選手が大学で鍛えられるのはアメリカくらいで、NCAで鍛えられたあとヨーロッパへ行ってナショナルチームのプレイヤーになったり、優秀な選手はWNBAでプレイしたりしています。

—— 日本に帰化するような選手はいないですかね？

女子選手の場合、現在は日本の制度的な問題を含めて、色々な問題があって帰化は難しいと思いますが、今後は日本も帰化選手を考えていかななくてはいけないと思います。

—— 昨年のオリンピック世界最終予選で日本はいいところまで頑張りましたが、身長の差はいかんともし難いという印象でした。

日本がオリンピックに出場するという目標に向かっては、まずは中国を凌いでアジアで優勝することが目標です。昨年の世界予選では身長が小さいながらいい戦いをしましたが、得点を多く取れなかったことが反省点です。ディフェンスをよく頑張るインサイドにおいては対抗できましたが、外角のシューターが劣っていたところだと思います。たまたま怪我で渡嘉敷選手が使えませんでしたでしたが、身長的にも渡嘉敷選手がいれば大分違ってくると思いますし、中国にも十分対抗できると思います。

身長だけは練習で伸ばすことのできない問題で、今後帰化選手を含めて素材を集めることが必要です。以前は速さで何とかだった時代もありましたが、最近はどこも大きくてスピードのある選手をそろえており、日本も渡嘉敷選手位のサイズの選手がもう少し欲しいですね。



—— 今回のオールジャパン女子の試合で3Pシュートの成功が目立ちましたが。

確かに3Pシュートはひとつのキーポイントにはなりますが、国際的にそれだけでは通用しません。日本は世界で身長的に劣っていますが、繊細的にしっかりとプレイしようとするいいところもありますので、それらを組み込んだ速いプレイで対抗すれば何とかなる

と思っています。更に速いプレイに加えて力強いプレイも必要で、外国の大きい選手とぶつかっても耐えられる身体能力を備える練習もしなければなりません。

昨年の世界最終予選のデータを分析してみると、第4クォーターにオフェンスリバウンドを奪われて負けているケースが多く、身体的なハンデがばてることにつながっていることがわかります。身長的事実を含めて各試合とも6～7名の選手で戦ってきましたが、これからは交替しても戦力が落ちない選手をもっと多く育てなければなりません。それには技術とともに身体的な強さも養うこと、得点を取るためにシュートの確率を高くする練習も行う予定でいます。

そして戦術的にも従来やってきた、相手をおかわしたり、抜いたりのプレイから、更に特化するプレイも必要で、大きい選手のローテーションディフェンスに対抗できる特殊なオフェンスプレイも考え実践していきます。幸い今回の世界最終予選で間宮選手や高田選手が、身長差はあったものの190cm台の選手と対等に戦うことができたことは明るい材料です。彼女たちは180cm台の選手であり、日本にはこの程度の身長の選手は素材的にも存在するのでやり方次第で何とかかなと思います。いずれにしても190cm台の渡嘉敷選手が健在のうちにオリンピック出場を実現したいと思っています。

—— 来年世界選手権大会があり、今年そのアジア予選がありますが、世界選手権大会はアジアから3チーム出場できるので将来へ向けて良いチャンスとなるのでは。

この秋タイのバンコクで世界選手権の予選となるアジア選手権大会が、10月26日から11月4日まで開催されます。世界選手権大会はオリンピックへ出場するための良い経験の場となりますので、世界選手権出場を目標にWJBLが終わる5月から日本代表チームの合宿に入る予定です。

現在アジアの情勢は、中国、韓国、日本、台湾の他インドが力を入れている状況です。インドには身長が高い選手もいると聞いていますので競争は激しくなるでしょう。

—— 先ほどヨーロッパの選手がWNBAへ行って鍛えられているという話がありましたが、日本の選手も個々に鍛えるため、ユーロリーグやWNBAに行ってはどうか。

ユーロリーグは日本のWJBLのシーズンと重なるので無理でしょうが、WNBAはシーズンが違うので可能性はあります。しかしWNBAは本人の希望だけで入ることはできず、世界選手権大会など国際大会で目立ってスカウトの目に止まらなければいけません。そこで日本の選手を何人かピックアップして、個々にWNBAの練習に参加させることも考えたいと思います。将来、日本の選手もWNBA、ユーロリーグで活躍できるようになってもらいたいと思います。

—— 昨年の世界最終予選で審判の判定はどうでしたか。

トラベリングとボールを持っているプレイヤーに対するファウルの判定は日本と違っていました。トラベリングは、ボールを受ける際のミートステップの足について、特に厳しかったです。インターハイなどで怪しいミートステップが見過ごされているのを見ますが、世界では相当厳しく判定されています。またボールを持ったプレイヤーにディフェンスするとき、手を使った触れ合いは厳しくファウルを吹かれます。両ケースとも日本のプレイヤーはある程度癖になっていますので、国際大会で修正を求めて行かなければなりません。

—— 先ほどから話題になっている身長差によるリバウンド対策は？

リバウンドについては身長的に劣る分チームリバウンドに徹する必要があります。シュートが放たれたときゴール下にどれだけ多くの味方がいるかが勝負になります。いわゆるBOXアウトで、オリンピック世界予選ではディフェンスのときBOXアウトしないで相手を取られているケースが多かったです。ポイントガードの吉田選手が飛び込んでリバウンドを奪うケースがよくありますが、これとてもBOXアウトがあつてはじめて成功するのです。今後は吉田選手に限らずガードであっても飛び込んでリバウンドが取れる選手を育てたいと思っています。そうすることによってディフェンスリバウンドでは身長差というハンデを少しでも乗り越えられると思いますが、オフェンスリバウンドとなるとなかなかそうはいかないので、シュート確率をあげる練習をしないといけません。

—— 上背が高く大きい選手がオールラウンド化している世界の中で日本のスピードバスケットは通用するのでしょうか？

スピードバスケットはまだ十分通用すると思いますが、今までと同じことをやっていると相手のディフェンスローテーションにブロックされてしまうでしょう。したがって速いバスケットアタックにもう一工夫加えることが必要です。あまり具体的なことは言えませんが、ドライブインで相手をかわしたあとパスをさばき、そのプレイヤーが更にもうワンパスさばくといったようなフォーメーションです。幸い日本のプレイヤーはそういった組織プレイは得意な分野ですので、工夫を積み重ねていきます。

—— 日本のスポーツ界ではオリンピックに出場することが大命題だと思いますので今後
もご努力の程をお願いします。

今回のオリンピック最終予選は相当ハードな戦いでした。基本的にはやはり世界予選ではなくてアジア代表としてオリンピック出場を勝ち取るべきだと思います。また仮に世界最終予選になったとしても、戦略的によく分析して戦い方を考え、オリンピック出場を勝ち取らなくてはなりません。今回最後の最後まで連日試合を重ねて敗れましたが、最終のカナダ戦では選手がばててしまっただけで足が動きませんでした。

最近では味の素スポーツセンターという良い練習環境も整っていますので、スタミナ面を含めて更なる強化に取り組んでいきます。

—— 本日はお忙しい中有難うございました。



12月21日はバスケットボールの日！

2012 年も行なった記念イベント

石井 一生

1891年12月21日、アメリカのマサチューセッツ州スプリングフィールドにあった国際YMCAトレーニングスクールにおいて、世界で始めてバスケットボールのゲームが行なわれてから2012年で121年が経過し、バスケットボールは121歳となった。

この記念すべき日を祝おうと、今年も「12月21日はバスケットボールの日！委員会」により「Basketball Birthday Classic」が代々木第二体育館で開催された。2011年と同じ12月19日の開催であったが、中学生からシニアまで全国から総勢250名ものバスケットボールファンが参加した。

参加者は2チームに分かれて午前10時から午後7時まで、延々1日中バスケットボールの誕生をお祝いするリレーゲームを楽しんだ。

2年目となった今回も、日本のバスケットボールの聖地代々木第二体育館で、誰でも気軽に参加してバスケットボールを楽しみ、バスケットボールの誕生を祝い、愛すべきバスケットボールの存在に感謝するイベントとなった。



イベント開始準備



抽選会に寄贈されたプレゼント

当日は参加者が「ホワイト・ジェームス」チームと「ネイスミス・カラーズ」チームに分かれて（このネーミングはバスケットボールの考案者であるジェームス・ネイスミスから来ている）、6分間のゲームを延々45回行い最後は「ホワイト・ジェームス」チームが391対387で「ネイスミス・カラーズ」チームに優ってゲームは終了。

ゲーム終了後は、協力各位から提供された豪華商品のプレゼント抽選会が行なわれ、大盛況のうちに幕を閉じた。

今回は体育館の入り口横で東京オリンピック当時の試合の様子を上映したり、バスケットボールの誕生を祝うケーキが用意されたりと、コート外でも楽しめるようなイベントも企画されたが、次回からは更にコート外のイベントの充実を図りたいと思っている。それによって試合に参加しない方でも、バスケットボールの誕生日をお祝いする実感を持っていただけるよ

うになると確信している。

最初のイベントを開催したときから「毎年できたらいいね」などの意見があり、今回も「来年はいつですか」という質問までいただき、当然のことながら2013年も開催しなければならない運びとなってしまった。

最初は何もかも手探り状態でいろいろと苦労もあったが、今回は2回目であったのでスタッフも慣れて特に苦労することもないだろうと考えていたのが甘く、終わってみれば学ぶことと反省点が多い結果となった。

しかし反省点があるということは改善の余地があるということで、次に向けてさらなる努力をしたいと思っている。

全面的にご協力いただいた日本バスケットボール振興会の方々を始め、ご協力いただいた多くの皆さんに心からお礼申し上げ、2013年もバスケットボールの日記念イベントの更なる普及を目標として取り組んでいきたい。

[バスケットボールの日！委員会役員]



.....

日本バスケットボール振興会では、「12月21日はバスケットボールの日」記念イベントに対して、バスケットボールの歴史的観点と普及促進の立場から、上記イベントに対し代々木第二体育館の確保などいろいろと協力している。

2013年もこれらイベントの更なる発展に寄与していく方針。



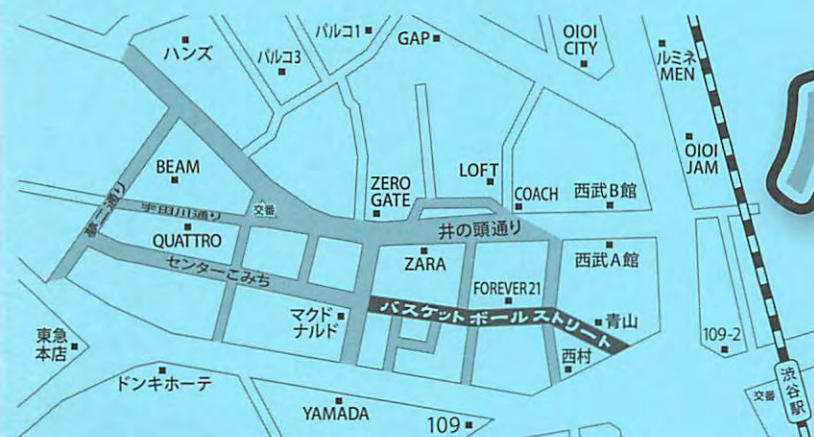
センター街メイン通りは、

BASKETBALL STREET

となりました。

渋谷センター街では、スポーツ振興と青少年の健全育成を基本理念に、国際色・ファッション性を考え合わせ、通りの名を「バスケットボールストリート」と命名。

5年、10年とかけてこのバスケットボールストリート、通称「バスケ通り」を定着させていきたいと考えています。



バスケットボール ストリート



渋谷センター街



DUPER®

SUPER 5

表現の自由人。

BASKETBALL

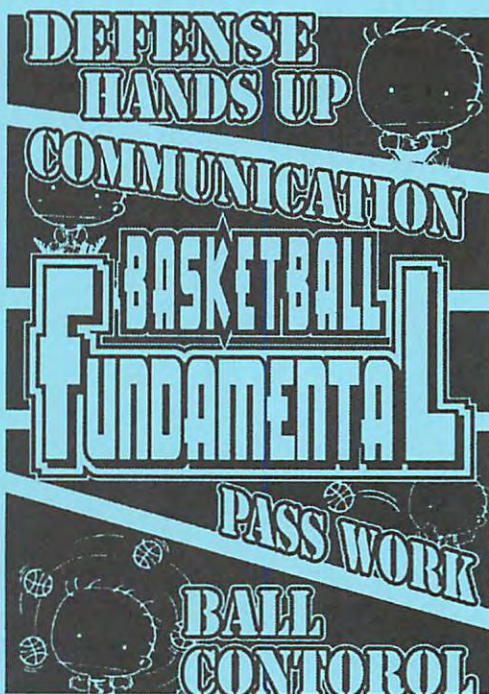


©DUPER FIVE CO., LTD.

AIR CATCH



©DUPER FIVE CO., LTD.



©DUPER FIVE CO., LTD.



©DUPER FIVE CO., LTD.

DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp